

2024年7月10日

正誤表

(1刷)

下記の通り1刷に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。なお、本訂正の一部は、天谷研一、伊藤秀史、鎔谷宏一、加藤寛崇、西川静華の各氏、および神戸市外国語大学において開講した「ゲーム理論」の履修者の皆さんからの指摘に基づいております。深く御礼申し上げます。

著者一同

第1章

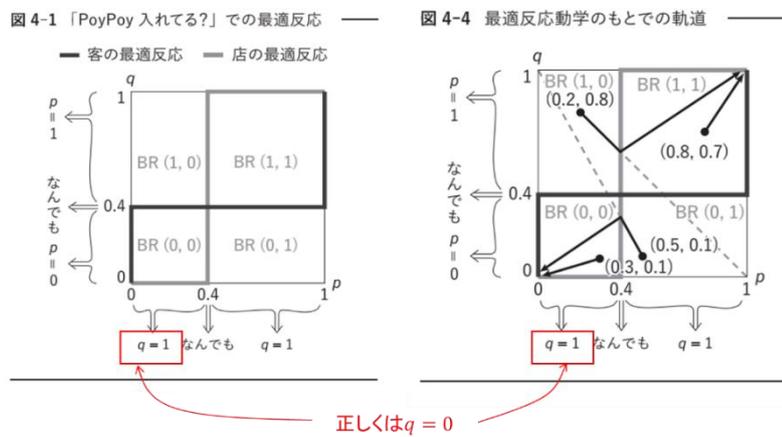
- P.38, 2段落目の2行目
(誤) プレーヤー2がCを選択した場合のみ
(正) プレーヤー2がCを選択した場合には

第3章

- p.97, Quiz1行目
(誤) 2011年9月11日
(正) 2001年9月11日
- p.128, 表3-8の(C,X)に対する利得
(誤) 1, 1
(正) 1, 0
- p134, 表3-9の(親切、不親切)に対するプレーヤー2の利得8を囲むように、点線の丸を追加。

第4章

- 図 4-1 (P.142) と図 4-4 (P.149) を以下のように修正



第5章

- P.202, 図 5-12(α)の(自白, 黙秘)に対する利得
(誤) 0, 10
(正) 0, -10
- P208, 図 5-15 の②の説明
(誤) 始点とつながっていない(均衡外経路)ので利得は変わらない。
(正) 始点とつながっていない(均衡経路外)ので利得は変わらない。

第6章

- P.234, 第3段落の1行目
(誤) $0 \leq d \leq 1$
(正) $0 \leq d < 1$
- P.243, 最後の段落3行目
(誤) 均衡の条件を導くために均衡戦略から逸脱するプレイヤーの利得を求めるうえでは, 「1期目だけ行動を均衡戦略から変え, そして2期目以降はまた均衡経路に戻る」という戦略を考えれば十分だという定理です。1回逸脱原理を使うと, 真光電設は1年目だけ行動を「低」に変えますが, その後はトリガー戦略に戻ると考えればよいわけです。
(正) 均衡の条件を導くために均衡戦略から逸脱するプレイヤーの利得を求めるうえでは, 「一回だけ行動をその戦略から変更し, その後もとの戦略に戻る」という戦略を意思決定の各時点で考えれば十分だという定理です。真光建設の1年目の意思決定を考える場合に, 1回

逸脱原理を使うと、真光電設は 1 年目だけ行動を「低」に変えますが、その後はトリガー戦略に戻ると考えればよいわけです。

- P.245, 最後の段落の2行目以降

(誤) 相手が戦略を変えないという前提で、自分だけ別の戦略にして利得が高くなるかどうかを見ていたので、ナッシュ均衡になります。一方で、トリガー戦略を選ぶことは、部分ゲーム完全均衡として示すこともできます。しかし、無限繰り返しゲームでは後ろ向き帰納法が使えないのに、どうやって部分ゲーム完全均衡が求められるのでしょうか。この点に関しては深い話になっていくため、オンライン・コンテンツで触れることにします。

(正) 部分ゲーム完全均衡を用いたいところですが、無限に続くゲームでは後ろ向き帰納法を使えません。オンライン・コンテンツで詳しく解説しますが、端的に言うと、どんな部分ゲームでも、各プレイヤーは単独で戦略を変えるインセンティブがないというのが部分ゲーム完全均衡の意味です。ここまでの本文では、お互いがまだ「トリガー」を引いていない部分ゲームを分析してきました。他方で、もしもトリガーが引かれたら、もはや絶対に協力に戻らないというのがトリガー戦略でしたね。なので、相手がトリガー戦略を取る中で、自分だけ戦略を変えても仕方がありません。これは割引因子がいくらかに依りません。従って、お互いにトリガー戦略を取るのが部分ゲーム完全均衡になる割引因子の条件を求めるには、トリガーをまだ誰も引いていない状況を考えれば十分なのです。

- P.246, 「ゲームの攻略法」の1行目

(誤) 無限繰り返しゲームでのナッシュ均衡は以下のように求められる。

(正) 囚人のジレンマの無限繰り返しゲームを考えよう。トリガー戦略の組を均衡とする割引因子 d の条件は、以下のように求められる。

第7章

- P.289, モデル 7.6 の 3 行目

(誤) で牛肉を打っている有名スーパーである。

(正) で牛肉を売っている有名スーパーである。

第8章

- P.301, モデル 8.1 の 7 行目

(誤) 特に新たな特性のない品質が低い商品扱う企業

(正) 特に新たな特性のない品質が低い商品を扱う企業」

- P.311, 下から3行目

(誤) Step1 後ろ向き帰納法で解ける部分は解いてしまう。

(正) Step1 完全情報になっている部分ゲームを、後ろ向き帰納法で解いてしまう。

- P361, 下から 8 行目

(誤) 現場を十分把握でききないのは組織が大規模になった…

(正) 現場を十分把握できていないのは組織が大規模になった…

終章

- P.369, 1 行目の式

(誤) $10 + 20r - 20 = 10(1 - 2r) > 0$

(正) $10 + 20r - 20 = 10(2r - 1) > 0$